

新潟ダイヤモンド電子(燕)

平屋の新工場建設

12月末 直線ラインで効率化

冷暖房機器の制御基盤などを製造する新潟ダイヤモンド電子(燕市)は、同市吉田鴻巣の自社工場隣接地に新工場を建設する。現工場では3階と2階に分かれる製造、組み立てなどの工程を新たに平屋の直線ラインで行うことで効率化を図る。12月末に完成予定で、2022年1月の操業開始を目指す。

同社はダイヤモンド電機



新潟ダイヤモンド電子の新工場建設地(9日、燕市吉田鴻巣)

(大阪市)とコロナ(三条市)の合弁会社として1984年に設立された。エアコンなどの電子着火装置や電子制御機器などを生産している。

直線ラインで一貫して行うようにし、階を変えることに伴う運搬や在庫のロスが減らす。平屋にすることで振動を軽減し、精密部品製造に適した環境も整備できる。基盤組み立ての完全無人化ラインも導入。現工場は手狭で見学などが難しいが、新工場では製造工程を見られるようにする。

同社には昨年以降、ダイヤモンド電機鳥取工場(鳥取市)が担っていたエアコンやストープなどの電子機器の生産機能が移管されている。新工場完成後も現工場は引き続き稼働させる予定だ。9日に工事の安全祈願祭を開催した芦谷三郎会長兼社長は「現場を実際に見てもらい、安心して注文を出せる。魅せられる工場」にしたいと営業面で効果も期待している。年間売上高は現在60億、70億円規模だが、創業40年に当たる3年後までに100億円到達を目指すとしている。